

## 公民科（現代社会）学習指導案

指導者 高山望

- 1 **実践（研究）テーマ** 生徒の主体的学習を促す授業の工夫～知的好奇心と双方向性を重視して～
- 2 **日時** 平成22年6月3日（木） 第3時限（11：05～12：00）
- 3 **場所** 高等学校1年6組教室
- 4 **対象** （高等学校）第1学年6組 40名
- 5 **単元（教材）名** 国際化のなかの人間
- 6 **本時の展開**

**(1) 本時の目標**

○国際社会の相互依存関係が強まっていることを学ぶとともに、異文化との共生について考える。

**(2) 学習の展開**

	学習内容・学習活動（生徒）	指導上の留意点（教師）	評価の観点 評価規準・（評価方法）
(8分) 導入	<生活のなかの国際化> ◎ 「舶来」の意味を推測する。 ◎ 身の回りの外国製品があるか調べる。 ◎ 本時の目標の確認をする。	◎ かつての日本と外国の関係を指摘する。 ◎ 文房具、時計、電子辞書など、今手元にあるものから探させる。 ◎ 生産だけでなく労働力や資本の国際化もありうることに留意させる。	【興味・関心】 題材について関心をもって学習に向かっている。 （観察・生徒の発言）
(42分) 展開	◎ 身の回りの「国際化」の中身について整理し理解する。  <相互依存関係の進展> ◎ さまざまな面で国際分業が進んでいる理由を考察し発表する。  ◎ グローバル化、ボーダーレス化の意味を確認する。  <異文化との共生> ◎ 「くじらを食べるのは野蛮だ」という批判について話し合い、小グループごとに発表する。  ◎ 犬を食べる文化について考察し、「くじらを食べることはおかしくない」と考える者が、「犬を食べることはおかしい」と考える場合があることに気づく。  ◎ 異文化との共生が課題であることを整理する。  ◎ 文化相対主義を理解する。	◎ 「量的な拡大」「交流の分野や範囲の拡大」「交流主体の多様化」に触れる。  ◎ 導入部分の生徒の解答に触れ、分業すれば各国に利益があることを確認する。  ◎ サブプライムローン問題、GM破綻、日産自動車社長を題材とする。  ◎ 資料集55ページ2を見させる。  ◎ 「くじらを食べることは日本の文化であり、欧米からの批判は当たらない」という意見が学級内に多いことを確認したうえで、犬を食べる食文化についての意見を問う。  ◎ ステレオタイプの例を資料集56で示す。  ◎ 資料集56ページの「マオリ人のあいさつ」を紹介。ただし、文化相対主義が絶対とも言えないことを指摘する。	【興味・関心】 題材について関心をもって学習に向かっている。 （観察）  【思考・判断】 国際分業が広がる理由を考察し発表する。（観察・発表）  【思考・判断】 資料を活用し考察している。（観察）  【技能・表現】 話し合いに参加している。積極的に発表する。他の発表を聞く姿勢がある。 （観察・発表）  【興味・関心】 題材について関心をもって学習に向かっている。 （観察）
(5分) まとめ	◎ 本時の振り返りをする。  ◎ 次時の予告をする。	◎ 資料集57ページ「異文化に橋をかけよう！」を見ながら、異文化体験を働きかける。	

**7 授業参観者に見てもらいたいポイント**

- ◎発問と具体的説明が生徒の学習意欲と知的好奇心を高めるものとなっているか。
- ◎全生徒が話し合いに参加したり発表を聞くなど、学びあっているか。